

研究

洪水災害の報告

棚野村庄屋文書による

資料提供 内田 幸夫

解説解説 羽柴 弘

昨年夏の前であつたが、農業改良普及所の内田所長にお会いしたところ、一枚の古文書を見せて下さつた。

私は解説したいのでコピーにとつたが、何かはとり紛れてそのままになり、ほゞはその所在すら分らなくなつていた。ところが先

ごろ机整理の際出て来たので、さらに読みかえし、災害時に當時は、どんな報告手續きをとつていたか、研究を加え、難解

のところは会員の皆さんに教えてもらいたい、幸い「史談」版権きりの最中なので、ここに掲載することとした。なお問題点もあげておいたので、ご研究をわづらわしい。

なお内田家は棚野の旧家、あるいは文中にある「庄家金右衛門」の後であつたか、伺つたと思つたが覚えていない。

今一つ、棚野村は堅田九か村天領（幕府直轄地）のうちの一の村であるが、十年ほど前の天明三年、幕府から依伯藩に預けて治めさせていた。前年の寛政四年には、公領十か村の惣代が幕府に訴へ出ている。

時の藩侯は八代高橋、洪水、旱ばつ、長雨、蝗害など連年交々至つて、しばしば飢饉状態が襲つていた。その最中の、大雨、洪水であり、藩庁としては被害救済、あるいは被害にたいして年貢減免の措置、そんな対策と考へなければならぬ。そんな状況下であつた。

(古文書本文)

奉差上御注進書之旨

今月廿一日之大雨洪水ニ而田畑共不残水押ニ洗付申上。勿論久保通り通稻等 実法無覚速相見へ申上。且又井堰川筋所々破損仕上。猶又谷川通は用水井遊長拾五間深サ五尺幅老間通程洗埋申上。其外道橋等所々破損所々御座候て數ヶハ數奉存上。依御注進申上以上

寛政五年丑八月

海部郡棚野村庄屋

金右衛門

巖源右衛門

岡藤左衛門

百蔵又右衛門

岡源 七郎

佐伯

御役所

(古談及下し) 差上げ奉る御注進書之事

今月二十一日の大雨洪水にて、田畑共残らず水押し洗い付け申し候。勿論久保通り一筋等実法無覚なく相見え申し候。且つ又井堰川筋所々破損仕り候。猶又谷川通りは用水井溝長拾五間深さ五尺、幅老間通り程洗い埋め申し候。其外、道・橋等所々破損の

(注)

奉差上、差上げ奉る旨、事の古字

水押し水押し、全部水で洗い流されることか

併、この三語共不明、

通、字書にない

実法、私のり、餘りの

打堰、川をせき止めた

井遊、字書にない、

井溝、字書にない、

なげかわしく

寛政五年(七九三)

佐伯藩八代高橋の時

所多く御座候て、教分はしく存じ奉り候。依つて御
注進申し上げ候。以上

寛政五年丑八月 海部郡棚野村庄屋金右衛門 (以下略)

さて昨今の歴史研究ブームの一つは、こうした古文書
の研究というのがある。その古文書は、大てい和紙に流
麗な文字で書かれ、読み下すのに苦勞する。前掲の庄屋
文書は、裏におとなしく書かれていたのだが、それでも
尚読めない字が何か所かあり、才が苦勞する。

一通り読めても、その古文書のもっている内容・問題
の所在を正しく受けとめることで、前掲の資料では、災
害の緊急報告手続、当時の農政の姿などがわかるわけで、
地域住民(農民)の在り方を知ることである。しかもそ
の時点での背景、農村社会の機軸を、どう学びとるか。
いろいろ副次的な問題もあろう。

このようなことは、ちよつとやそつとで出来るもので
はない。コソコソ気長にやる以外はない。年期が要る。

幸いなことには、今は極めて優秀な電子コピーの方法
があつて、待つているうちに古文書の類は、いとも鮮明
に複写がとれる。立ちどころに何枚でもとれる。そこで
時を定めて、古文書学習会などしたらどうかと、しき
りに考へている。

棚野村庄屋の災害發生の報告は

1. 田畑の風水害による被害

2. 横堰・水路の被害

の二つようである。寛政年間(の当時の災害復旧は、す
べて農民達の自力で、その財力すべてを道具にして、農
民総出で志急の措置をとる外なかった。根本的な復旧工
事は、恐らく冬になつてから、農閑、湯水の時期になつ

てからのことである。

今、最道をバスに乗り、堅田川ぞいに青山まで十かの
ほれば、この棚野から川井付近まで、横堰はことごとく
コンクリートの、堅牢永久の構築である。しかし谷川
・山口・三軒屋との成ると、昔ながら頑丈な松材を横に
組み、乱杭を打った井堰がる。まだ数か所残っている。
歴史的なものである。写真にこへておこう。
(おわり)

研究

山口の五穀成就様

—山村青山の路傍の石祠—

会員 漆 夫 勤 蔵

佐伯市青山、山口区尾ノ(小宮名)の一角に、地神塔と三
界万靈塔と並んで、「五穀成就様」と呼ばれている。小
さな石の祠が建っている。(次のページスケッチ)中をのぞ
くと、次のような文字が陰刻してある。

奉 納 御先祖 三 靈社
成 就 御神様

「御先祖三靈社」の文字に不審をいだき、土地の古先
後藤文七氏を訪ねて、これにまつわる次のような伝承を
聞かせてもらった。

○ 五穀成就様の由来